

教授を通じた歴史理解発達の事例的研究 ～テキストの統合と主張を構築することの重要性～

担当：山村向志（筑波大学大学院）

s1720081@s.tsukuba.ac.jp

I. 著者の紹介（※大学 HP を参考）

①著者名：James F. Voss（写真なし）

研究関心：歴史と国際関係の分野における、学習、推論、問題解決、意思決定の研究と学習指導に関心を持っている

経歴：ウィスコンシン大学にて博士号を取得。現在はピッツバーグ大学の学習研究開発センターで主任研究員を務め、同大学の心理学と政治学の教授（現在名誉教授）でもある。

②著者名：Jennifer Wiley

研究関心：テキストの理解やメタ認知、科学と歴史分野における学習改善の介入方略、学習と問題解決における協働の役割について関心がある。

経歴：ピッツバーク大学にて James F.Voss 教授の指導の下で博士号を取得。現在イリノイ大学心理学部教授を務める。



Jennifer Wiley

II. 用語

- ・ mental representation 心的表象
- ・ situation model 状況モデル
- ・ deep processing 深い処理 ⇔ superficial processing 表面的な処理
- ・ argumentative essay 論述文（議論的エッセイ） ⇔ narrative essay 物語文（物語的エッセイ）

III. ひとこと概要

筆者たちは、歴史テキストの提示のあり方、教授場面における課題のタイプが、生徒の歴史理解に与える影響を調査している。その一連の研究の結果から、複数の資料の読み取りや論述文を書かせる課題を行なうことが、生徒の理解を深める上で重要であることを主張している。

IV. 疑問点

- ・ 物語文 (narrative essay) を生徒に書かせる歴史授業とは具体的にどのようなものか
- ・ 今回の研究では、用いられる資料の提示のあり方や記述課題のタイプが理解に与える影響を指摘しているが、用いられる資料のタイプが異なる場合（例えば絵画資料、映像資料、土器などの実物教材）、生徒の理解に与える影響も異なるものなのか。
- ・ 記述内容に基づいて生徒の歴史理解を図ることに限界性はないか？特に今回の研究のように接続語や、文章構造に着目して記述の評価を行う場合、歴史理解よりも個人のライティング・スキルの問題に収斂してしまう可能性はないか。また、記述の分析以外に生徒の歴史理解を図る方法はあるか。

V. 本文の要約

RQ: ①歴史のテキストの一部を別々に(複数のテキストとして)提示することは、一つの文書の一部を提示するよりも優れたパフォーマンスを生み出すのか。

②歴史的なトピックに関する論述文(argumentative essay)を書くことは、物語のような他のタイプの記述よりも優れたパフォーマンスを生み出すのか。

⇒これら2つの要因の相互作用もまた関心の一つ

⇒研究の理論的な根拠を示す前に、我々が用いている学習と理解の概念を検討する必要がある。

○学習と理解

(i) 学習 (learning) (pp.375-376)

- ・心理学的な観点からみると、学習の概念は特定の知識の獲得か個人によるスキルの発達とされる。また信念や態度、その他の概念の獲得やその変化と関連するものとして扱われることもある。
- ・本論文において「学習 (learning)」という用語は、テキストの内容を正確に再現する、あるいは特定 (identify) する能力を指す。
- ・具体的にはテキスト内容への質問に対する生徒の正答数を測ったり、テキストの内容と照らして個別の文が正しいかどうかを参加者に確かめさせ学習 (learning) を測定した。

(ii) 理解 (pp.376-379)

- ・「理解」という言葉は、特定の出来事や人物の知識だけでなく、構成要素、原因、または論争中の問題に対する基本的な方針の知識も含むことに心理学者はおそらく同意する。
- ・人はテキストを読むと、Kintsch が状況モデルと呼んでいるものを発達させる。
- ・このモデルはテキストの内容に関する心的表象であり、そのテキストのトピックについて個人がすでに知っていることを考慮に入れる。

(報告者注※ 心的表象・・・読み手があるテキストを読んで記憶に残ったもの)

e.g.) テキストの内容・・・「2000年に民主党が、副大統領としてカリフォルニア州のダイアンファインシュタイン上院議員を指名する。」

読み手の状況モデル・・・「カリフォルニア州が他のどの州よりも多くの投票数を有しており、ファインシュタインの指名は 民主党が州の投票で選ばれることを手助けするかもしれない。」

- ・状況モデルは、概念を表す「ノード」と概念間の関係を表す「リンク」を有するノードリンク・ネットワーク構造と考えることができる。
- ・リンクは「～に影響を与えた」、「～につながった」、「そのため」、「～を引き起こした」といった因果関係の用語を含む。
- ・理解とは、ある状況で人が持つノードリンク構造の種類と程度、またそれに対応して活用する心的表象の内容の性質を指すものと想定される。
- ・個人がテキストを読んだり、他の多くのタスクを実行したりすると、獲得した情報を浅い、もしくは深いレベルで処理することができる

- ・表面的な処理（superficial processing）はあまり発達していない状況モデルをもたらす。
 - ・深い処理はより関連性の高い情報を活性化させると考えられるため、より広範な心的表象が発達する。
- より深い処理は、より因果関係の強い表現をもたらすはずである。

（報告者注※「処理」とは「文章から得た知識を 活用・熟考・応用」する状況モデルを構築する過程を指す）

本研究における 5 つ (①～⑤) の理解尺度

①～③は記述されたエッセイを通じた分析

①エッセイが最低限の情報を掲載しているか、分析的であるか（主張や結論があるか）

②推量、因果関係などの接続詞は何回用いられているか。

（因果関係の接続詞が多くあることは、より深い理解を示していると想定された。）

③文章の出所はどのように位置づけられているか。エッセイの各文節を引用、補足、変形 (transformed) の 3 つのカテゴリーに分類した。

（「変形」はテキスト内容の言い換えや、既に知っている内容とテキストの内容との統合を伴うため、より良い理解を示すものと想定された。）

④～⑤の理解尺度には、データの検証 (verification of factual data) が含まれていた

④テキストを読んだ後に個々の生徒にある文章を提示し、その内容がテキストの文脈から正しく推論され得るかどうかを尋ねた。（10 個の誤った文章と 10 個の正しい内容の文章があった）

⑤アイルランドのジャガイモ飢饉と様々な面で類似性をもつ 4 つの他の出来事（1929 年の株式市場の暴落、黒死病、結核の流行、南北戦争後に課された人頭税）を比較させ、1~10 の尺度で類似性の評価を行なわせた。（南北戦争以後に課された人頭税が最も類似性があると考えられた）

○本研究の理論的根拠と研究方法

（i）理論的根拠 (pp. 379-380)

- ・どのような操作や介入が学習や理解を促進すると見込まれるのか？

手続き①：標準的な物語形式のテキストである教科書のある章の提示と、一つのテキストを 8 つに分割し別々の資料としてランダムな順序で提示する。

理論的根拠及び仮説：テキストを複数に分割して提示する条件はテキストを構造化するために 8 つの内容を統合しなくてはならないため、すでにテキスト上に構造が示されている単体のテキスト提示の条件よりも深い処理をもたらすだろう。

手続き②：各生徒に物語文、論述文、歴史エッセイを書かせ、その内容を比較する。（本研究では物語文と論述文の相違に焦点を当てる）

理論的根拠及び仮説：論述文を書くことは、テキストの情報の再整理や再構造化を必要とするため、物語を書くことよりも資料のより多く、より深い処理を必要とするだろう。

：複数のテキストを用いた論述文の課題において、理解の尺度が最大になるだろう。

(ii) 研究方法 (p.381)

- ・調査のために選ばれた歴史トピックは19世紀のアイルランドのジャガイモ飢饉
- ・調査に用いられたテキストは、19世紀半ばに発生した飢饉に関する宗教的、政治的、社会文化的、農業的要因と、それに伴うアイルランドの人口の減少に関するものだった。(因果関係や説明的な情報は含まれていない統計資料や法律の条文といったものが含まれた)
- ・調査において各参加者には2つのパッケージが与えられた。一つ目のものには、単一のテキスト、複数に分割されたテキスト、のいずれか一つを読むよう求める資料を含んでいた。
- ・2番目のパッケージにはテスト用の資料が含まれていた。学習を測定するための修了問題と、20個にわたる各項目がテキストの内容にあったかどうかを生徒が答える文章確認の課題が含まれていた(20個中10個の項目が実際にテキストにあった)。理解を測るための推論と方針(principle)の検証の項目も含まれていた。

○研究結果及び示唆 (pp.381-386)

複数のテキストを読解する条件と、論述文を書く課題の条件の参加者は...

他の条件の参加者に比べて①分析的な記述を行っていた

- ②因果関係を示す接続語を用いる割合が高かった
- ③テキスト内容の「言い換え」を行う傾向が高かった。
- ④南北戦争後の人頭税が他の出来事よりも飢饉に類似していると見なす傾向にあった。(⇒深い理解が行えていた)
- ⑤テキスト内容のよりよい記憶を示していた。

(単体のテキストー物語文の条件の参加者も同等の記憶を示していた)

・単体のテキストを読解する条件と、物語文を書く課題の条件の参加者は...

他の条件の参加者に比べて・質問項目の内容がテキストの文脈から正しく推論され得るかどうかを尋ねるデータ検証において、よりより認識を生み出していた。

→物語の記述を行った者は、当時の状況に関する自身のモデルを開発することよりもテキストに関して正確であることにより関心を持っていた。

他の調査では..

研究方法①複数のテキストの読み取りを行なわせた後に、テキスト全体に対するそれぞれの文章の重要性の評価を行なわせた。その後に参加者の半数が物語文を、残りの半数が論述文を書いた。(更に各条件の参加者はテキストの評価を記述の前に行うか、後に行うのかで分けられていた)。

結果①

論述文の条件で記述の前に文章の評価を行った参加者は、記述の後に評価を行った同条件の参加者に比べて因果関係の接続語を用いる割合が低かった。物語文の条件では文章の重要性の評価を文章の記述の前に行っていたほうが、因果関係の接続語を用いる割合が高かった

⇒論述文の記述には、学習内容に関する重要性の基準が、テキストで描かれている物語のものとは異なると考えることが必要

研究方法②

物語文と論述文について理解していることを述べるよう生徒に求めた。その回答は、「一面的」、「説明的」、「あなたの意見を書いてください」といった比較的単純で一面的な視点と、「二面性」「両側面」、「主張」、「裏付ける」、「事実の解釈」、「証明」といった二面性や証拠の必要性を認識しているより複雑な視点のものに分類分けされた。

結果②

回答においてより複雑な視点を持っていた生徒は、テキストを読んで課題の記述を行う際に（事実の羅列ではない）より分析的な記述を行っていた。また、文章の中にテキスト内容の「言い換え」が多く見られた。さらに、質問項目の内容がテキストの文脈から正しく推論され得るかどうかを尋ねる内容確認の結果と、ジャガイモ飢饉と他の歴史事象との類推の結果が良いこととも正の相関があった。

研究方法③

複数の資料から読み取りを行った参加者に、ジャガイモ飢饉に関する偏った説明が述べられている資料を追加で提示し、1～10の尺度で各資料に対する同意や意見の不一致を評価させた。

結果③

ジャガイモ飢饉をより複層的な因果関係で説明していた参加者は、資料に述べられている内容のバイアスの存在に気づいていた。

○教育的考察 (pp.386-388)

- ・理解は、読み取りや記述を行うような課題を実行する際の情報処理の性質と関連する。
- ・深い処理は、トピックに関する前提知識や、文章構成の知識といったより高度な一般的情報、思考スキルによって促進される。
- ・複数の情報源を使用し議論のエッセイを書くことは、処理を最大化するのに役立つ手続きの組み合わせの一つである。